

2008

7

No. 34

Miyakojima City 広報
Public Relations

みやこじま

◆特集◆ 海を見守る人々



大型クルーズ船の接岸も可能に

— 平良港下崎ふ頭 岸壁完成・供用開始記念式典 —

5月24日、平良港下崎ふ頭の新しい岸壁の完成・供用式典（主催：内閣府沖縄総合事務局、宮古島市）が、平良字荷川取の下崎ふ頭で行われました。

式典では、完成を祝うテープカットが国や県、市の関係者によって行われ、これからのふ頭の活発な利用と宮古の発展に期待をよせていました。

今回完成した岸壁は、全長170m、水深10mで、これまで使用されていた第一ふ頭のおよそ2倍に当たる12,000トン級の大型船も接岸可能になりました。

今月の主な内容

特集：海を見守る人々 ……P2

国保税の税率改正について ……P4

お知らせ（道交法一部改正 ほか） ……P8



海を見守る人々

四方を海に囲まれた宮古は、海から様々な恵みを与えられてきました。現在も、海からの恵みなしには生きられない宮古で、「漁師」という職業は重要な仕事の一つです。

昔ほど多くの漁師はいませんが、今でも、漁師たちが漁から帰ると、港はにぎわいを見せています。グルクン、ミジユン、カツオに戻りカツオの大漁の話題は新聞紙面をかざり、大物マグロの水揚げと漁の話題に欠くことのない港町……。宮古の原風景とも言うべき景色。

古き宮古を知り、現在も海を見守っている。そんな人々がいます。



佐良浜で見守る人々

海への思い

佐良浜漁港を一望できる場所に、元漁師のおじいたちが三々五々集まってきます。そこは、見張り場と呼ばれ、毎日、2時ごろから集まり始めるといえます。

多いときには、30名ものおじいたちが集う社交場となっている池間派のこの場所は、東向きになっていて、梅雨の晴れ間に伺ったその日は、優しい風が吹き抜けていました。使

いふるしたイスや簡易に作ったベンチなどが置かれ、高台になっているこの場所から漁を終えて帰ってくるアギヤー（追い込み漁）のサバニやカツオ、マグロ漁の船を眺めながら漁のよし悪しを見定め現役漁師たちの仕事ぶりを見守っています。

現役を退いても漁に対する思いは尽きる事はなく、海の様子あるいは風の変化、雲の状態から天候を気にかけて明日の漁を気遣うおじいたち。

屋外の一番座

それから日常の出来事など様々な話が交わされるとのこと。その日は、器用に塩化ビニールでこしらえてきたステッキをお披露目するおじいさんに、仲間内からさかさず冷やかしくアドバイスも飛び笑い声が心地よく響いていました。

92歳になるという長老的存在のおじいさんは、黄色地が鮮やかなアロハシャツをおしゃれに着こなし、穏やかな顔で、みんなの話を聴いている。お話をしていたいた前里さんによると、平良港を往復する定期船の出入りで時間も分かるので時計も必要ないとのこと。また、冬場は、暖を取りながらここへ集まるのだと少し奥まった所を示して丁寧に教えてくれました。

癒しの不思議スポット

眼下に広がる港、そして、青くたおやかな海原、心地よい海風がここを解き放ちます。

そこに居るだけで穏やかな気持ちになる。そこに居るだけで安心する。そこに居るだけで心が満たされる。「昔は、サバニを漕いで、二日三日帰らないで、海にいつていたさあ」かつては、泊り掛けで漁をしたこともある。命がけで海に臨んだ漁師魂、命を落とした仲間たちへの哀悼の思い、さまざま思いがこの空間には漂う。海へ挑む男たちの誇りやおおらかさ、優しさが垣間見えたとような気がしました。

路地裏の笑劇場

気になったのが、「おばあたちはどうしているの？」でした。

寄り添うように建っている佐良浜地区の昔ながらの家々。少し外れた路地へ入っていくと、おばあたちは路地に面した家の軒下に、ゴザを敷き、5、6人で腰掛けていました。おばあたちは、3時ごろから集まり夕涼みをしているのだと言います。しかしおばあ達、とにかく笑う！しゃべっては、笑い、茶化して笑い、



カメラを向けられても笑う。

その輪の中には、百歳になるおばあがいましたが、とても若々しくて、ご高齢には見えませんでした。長生きのひけつは、以外とこんなところにあるのかもしれない。

おじいたちの見張り場が、「癒しのスポット」ならば、おばあたちが集うこの場所は、さながら「路地裏の笑劇場」といったところでしょう。日々変わり行く宮古島の景色の中で、昔懐かしい原風景がまだまだ残る佐良浜の路地裏は、貴重な遺産として、価値のあるように思えました。





池間で見守る人々

池間島の漁師たち

宮古の最北、池間島。ここにも、海を見守る人々がいます。

島の中心部、集落センターの側。真つ黒に日焼けした肌のおじいたちが、仲間とベンチに座っていました。何をしているの？と聞くと、朝早く出た漁から帰ってきて、友達と情報交換を兼ねた、たわいもない話から今日の仕事のこと、政治のことまでいろいろと話している、とのこと。迷惑かもしれないと思いつつ、少し集まりに混ぜてもらいました。

自由な集まり

おじい達は突然の訪問者に嫌な顔もせず、いろいろ教えてくれました。毎日、午後3時頃から5時頃までの2時間は、友達との会話を楽しむ時間。誰かが「集まろう」と言ったら、誰でもなく、気づいたら自然に集まっていた。何も言わなくても、時間になつたらみんなやって来る。義務も強制もない、楽しいからみんな来る。「2〜3日顔を見せなかつた仲間がいれば、病気になるつたのか、怪我したのかすぐに分かる。毎日だれかが集まってくるから絶対に分かる。だから、池間では「孤独死」なんてものはないさあ」と言ったのは、集まった中で最年長のおじい。それに「そんな大層なものじゃない。ただのポケ防止さあ」と返す隣のおじい。そのやりとりを見て、どつと笑うおじいたち。今では貴重な、素朴ながらも大切なコミュニケーションを感じました。

生涯現役

おじいたちの話は止まりません。今度は生業である漁の話。昔は、池間のまわりにも、池間湿原に魚やエビ、カニがいっぱいいて、えさが豊富だから島もたくさんいたこと。漁に出るときは、1隻の船に30人

以上も乗り込み、船団を組んで遠く外国まで行っていたこと。「6カ月働けば1年食えるだけの収入になつて、残りの6カ月は仕事しなくてもいいくらいだったよ」と言つたおじい。立ち上がったって身振り手振りで話してくれました。と、おじいたちの声が少し寂しくうになりました。「でも今は、魚が全然なくなつた。水の循環口が工事で塞がれたため、池間湿原の魚は全然なくなつた。新しい法律や石油など燃料費の大幅な増加で遠くまで漁に行けない。池間全体で人口が減ってきている...」

夫婦の絆

「恥ずかしいから写真は撮らんで」カメラを取り出すと、すぐに言われたこの言葉。声の主は、軒先でおしゃべりをしていたおばあたちです。カメラを向けられ、目を逸らしたり、手で顔を隠したり。なんとか1枚だけ撮らせてもらった後、おしゃ

べりに混ぜてもらいました。おじいたちのことを聞いてみると、「おじいたちも男たちだけで集まってるから、おばあたちも女だけで集まってるだけさあ」「おじいがかつて漁から帰ってくる時は、昔は今か今かと高台から船を探してまで迎えていたけど、今はそこまではしない」と、ちよつと素っ気ない態度。しかし、その態度の端々におじいたちに対する愛情が見え隠れしていて、あたたかい気持ちになりました。



あなたの「宮古の風景」は

何気ない日常の中に、様々な思いがあり、触れて初めてわかる「宮古の風景」があります。あなたの「宮古の風景」は何ですか？

国保税の税率が改正

宮古島市では、国民健康保険制度の健全な運営を図るため、国民健康保険税を見直し、合併前の旧市町村区で異なっていた税率を統一することにしました。

国民健康保険は 助け合いの制度です

日々の暮らしの中、いつ大病や事故にあつてしまふかは、誰にもわかりません。国保は、そのような方が一の場合に備えた制度で、加入者がそれぞれ収入に応じたお金を出し合い、万一の場合の経済的負担を支えあうことを目的としています。

国保加入者の医療費は、次の3つの財源から支払われています。

- ① 患者負担として医療機関の窓口で支払うお金
- ② 国の補助金や県、市の一部負担金
- ③ 国保加入者の負担する国保税

国保税は医療費全体でも大きな割合を占めており、医療費の支払いに欠くことのできない貴重な財源となっています。

後期高齢者支援分の新設や 統一税率への変更を実施

今回の改正では、平成17年の合併時からの課題だった国保税の不均一課税を、平成20年度から統一課税としました。

- ① 統一課税とした主な理由は、平成20年度からの医療制度改革による新たな課税額の発生（後期高齢者支援分）及び特定健診・特定保健指導事業の費用負担を考慮した税制改正が必要
- ② 増大する医療費に対し、旧5市町村の不均一課税では税収不足等があげられます。

統一課税となつたことで、負担増加が著しく大きくなつた旧城辺・旧下地・旧上野の各地区の被保険者に対しては、緩和措置として補助金が交付されます。

また、後期高齢者医療制度の実施に伴い、後期高齢者支援分を新たに新設しました。

税率改正内容 ※単位は、限度額・均等割・平等割が『円』、所得割・資産割が『%』

	医療分					介護分(40～64歳)					後期高齢者支援分(新設)				
	限度額	所得割	資産割	均等割	平等割	限度額	所得割	資産割	均等割	平等割	限度額	所得割	資産割	均等割	平等割
新税率	47万	10.90	31.30	19,500	17,000	9万	3.50	8.10	8,900	5,400	12万	3.60	9.00	7,100	6,800
旧平良	56万	8.50	35.00	18,000	20,000	9万	1.00	4.15	6,100	3,600	なし (今年度新設のため)				
旧城辺		7.50	50.00	11,500	13,000		1.20	6.50	4,500	2,700					
旧下地		5.90	35.00	11,500	13,000		1.20	4.50	4,500	3,000					
旧上野		5.90	41.00	11,500	13,000		1.10	5.60	4,000	2,500					
旧伊良部		10.00	49.58	15,000	21,000		1.20	9.20	4,400	3,600					

一部の負担額大幅増の緩和を 目的に補助金が交付されます

今回の国保税率改正により、これまで税率の低かつた城辺・下地・上野地区が大きな負担増となつたため、負担緩和を目的として補助金が交付されます。

【対象】①と②を全て満たしている世帯

- ① 合併時の、平成17年10月1日より平成20年4月1日現在まで引き続き城辺地区、下地地区及び上野地区に居住している国保加入世帯
- ② 平成19年度および平成20年度の国民健康保険税を完納している世帯

補助対象世帯には、「平成20年度課税決定通知書」に「補助金対象金額及び補助を受けるための要件」、「金融機関の口座番号届出書」が送付されます。

補助金の額は、「平成19年度税額」をA、「平成20年度税額」をBとして

$$A \times (B - A) \div A - 0.5 \leq X \leq 0.6$$

で算定されます。算定された補助金が千円未満の時は0円になります。

詳しくは

国民健康保険課

☎ 777-7590



平成20年度生涯学習・社会教育事業

宮古島市生涯学習部社会教育課は、4月24日、社会教育委員委員職状交付式及び第1回社会教育委員会議を行い本年度の社会教育・生涯学習の事業などに関する審議を行い委員からは活発な意見が交わされました。

社会教育委員の職務

社会教育委員は、社会教育に関し教育長を経て教育委員会に助言する職務を行うもので、社会教育に関する諸計画の立案や定時、又は臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じて意見を述べる事。職務を行うために必要な研究調査を行うとしています。

宮古島市社会教育委員のみなさん

議長：野原 辰雄 副議長：安慶田 昌宏
委員：与儀 達 宮川 時子 川満 清次
本永 安子 平山さおり 神里 清春
下地 嘉春 野原 勝也



7月の主な事業
11日：青少年深夜はいかい防止
県民一斉行動市民大会
24・25日：少年団体リーダー研修会



ちょっと早い



5月17日(土)、野原地区の野原公民館で、65歳以上の72名のおじいさん、おばあさんを招待し、野原部落敬老会が行われました。舞台では、幕開けに「かぎやで風」で始まり、その他、琉舞やエイサーなどを婦人会、老人クラブ、子ども会のみなさんが披露し会場を盛り上げ楽しい敬老会となりました。参加されたおじいさん、おばあさんたちは、地域のみなさんが主催した「ちょっと早い敬老会」をにこやかに楽しんでいました。



赤名宮の由来

伝えによると子方母天太(ニヌパンマティダ)が育てた十二万の神々(池間島の主御嶽、赤崎御嶽の大世の主、阿津真間御嶽の蒲戸金主、美真瑠主など)の一人でこの御嶽の祭神は御栄加主(うえがめす)といい公的な事業、官職栄達の道を司る。旧神殿は1965年に改築され、さらに鳥居と他の一部が昭和61年に改築された。一般の人は、家族平安、旅行安全、就職栄達、事業成功を祈願する。(平良史第九巻御嶽編より抜粋)



赤名宮落慶式・落成式典を開催

下地地区の与那覇湾沿いにある赤名宮がこのほど改修工事を終えて、朱色の鮮やかな鳥居と艶やかな神殿に生まれ変わりました。5月27日、赤名宮改築工事期成会主催のもと落慶式ならびに落成式典が行われました。多くの関係者らが真新しい神殿の前で、宮古島市の守護神に就職栄進や事業の発展などを祈願しました。



見上げてごらん ちよつと上を・・・!

“小便小僧” 愛らしいその姿を見た誰もが、心とほむと時を得ることができないのではないでしょうか。その姿を見せてくれるのが、まていだ通りのとある小児科の玄関上部に設置されている小便小僧です。 医院長の話によると、少年の頃、旧平良市役所庁舎の玄関前に小便小僧の噴水があり、手作りの小舟を浮かべて遊んだ記憶が懐かしく、開院の際に設置したとのことでした。 その舟は、帆立舟だったのででしょうか、輪ゴムを推進力にしたプロペラ式だったのででしょうか？
噴水で遊ぶ子供たちの光景が浮かんでくるようです。
病院と言えば、子供にとって行きたくない場所の一つにあげられるでしょうが、ここは、近所の小学生から「小便小僧の病院」と呼ばれ親しまれているようです。さて、この小便小僧は、来院する子供たちに、どんな思い出を残して行くのでしょうか。 屋根の上で腰をちょこんと突き出し、今日も涼しげに立っています。
あなたにもありますか？小便小僧の思い出・・・！
一度、ゆっくり見上げてごらん ちよつと上を・・・!



「小便小僧の病院」



文化庁事業紹介 担当部署：教育委員会文化振興課

「伝統文化こども教室」

伝統文化こども教室とは、伝統文化をこどもたちに体験、修得させ継承、発展させる事を目的として、文化庁が(財)伝統文化活性化国民協会に委嘱、実施している事業です。

今回は、「いけ花宮古こども教室」を紹介します。この教室は、一葉式いけ花宮古教室を主宰する斎藤葉彩・斎藤央火氏が行うもので、今年で4年目の開催となります。一葉式いけ花とは、流派という流れにとらわれず個性をいかした生け花ができるようにとテキストを導入し誰でも早く上達できることを目標にした華道教室です。また、単に花を素材とするのではなく、枝や竹、樹木、ときには金属を用いた自己表現を生け花で行うことが特徴の一つです。

教室では、生け花の簡単な歴史や住空間に合った花型の成り立ちを説明することから始まり、生き物としての植物への心配り、宮古島に生息する植物の生息環境、形態、特徴などを学び宮古島の自然を理解しながら、それらの素材を自由な発想で活かし創作の楽しさを体感できる。また、共同作品では、創造性、協調性、思いやりを持つことが成果として得られるとのこと。 「いけ花こども教室」のこれからの展開としては、各地域に出向き多くのこどもたちに生け花の魅力、身の回りにある素材で自由発想の自己表現が楽しめること、地元との自然と関わり合う重要性を伝えていきたいとのことでした。



今回は、夏休み期間中に上野農村改善センターでの開催になります。多くの児童・生徒の参加を呼びかけています。



講師プロフィール
斎藤葉彩
帝国華道院特別認定教授
一葉式いけ花准一級教授・副理事